

第 5 次津島市総合計画策定ワーキンググループ開催結果

①ワーキングの役割

- ・重点課題について議論したうえで、まちづくり戦略案を検討

②メンバー

庁内各課若手職員 27 名

③スケジュールと内容

| 回 | 日時 | 場所 | 内容・テーマ |
|------------------------------|-------------------------------------|-------------|--|
| 第 1 回 | 令和元年 7 月 29 日 (月) 14:00~16:00 | 入札室 | ・総合計画の概要及び各種説明 ・10 年後の理想の津島市について |
| 第 2 回 | 8 月 19 日 (月) 10:00~12:00 | 入札室 | ・現在の津島市の課題について ～現総合計画総括評価シートの確認と、今後の 課題・方向性の検討より～ |
| 第 3 回 | 9 月 13 日 (金) 14:00~16:00 | 4 階 大会議室 | ・今後の津島市の方向性について ～現総合計画総括評価シートの確認と、今後の 課題・方向性の検討より～ |
| 第 4 回 | 10 月 7 日 (月) 10:00~12:00 | 4 階 大会議室 | ・今後の重点課題について ・課題解決のアイデアについて ・まちづくり戦略（重点施策）のテーマの検討 |
| 第 1 回～第 4 回の検討内容からグループ構成の見直し | | | |
| 第 5 回 | 10 月 31 日 (木) 14:00~16:00 | 4 階 大会議室 | ・まちづくり戦略案の検討 |
| 第 6 回 | 11 月 20 日 (水) 14:00~16:00 | 入札室 | ・まちづくり戦略案の検討 |

④基礎調査結果の報告

- ・アンケート調査、各種データ分析結果

⑤部会構成

- ・津島市の現状と課題を確認する部会（第 2～4 回）とまちづくり戦略テーマを検討する部会（第 5～6 回）とは分けて部会を構成した。
- ・第 2～4 回の部会構成
 - A. 産業・環境・市民生活・交通・都市基盤・水環境（分野別計画第 3 章、第 5 章）
 - B. 保健・医療・福祉（分野別計画第 2 章）
 - C. 協働・行財政運営・教育・文化・人権（分野別計画第 1 章と第 4 章）

第5次総合計画策定に向けて重点課題

Aグループ

- どうしたら住み続けてもらえるか？
- 津波浸水区域と知らせる⇒住んでももらえるか？
- 下水道など、維持のレベルで良いもの
- 蟹江⇒弥富⇒津島（住宅ニーズ）
- アパートは家賃が安い
- 子育て、医療費
- 高齢者目線、移送～2025年ピーク
- 公害苦情件数多い原因は？
- ICT案内の主要病院のネットワーク有
- せと物祭、瀬戸もの祭⇒キャッシュしてよびかける
- 情報化⇒スマートシティ、会津若松市
- VR、情報課
- キャッシュしてデジタル化、住民票←マイナンバーカード
- 女性の活躍⇒働きやすい環境は整ってきた
- 産業←住み続けるメニューにもなる
- 呼び込み
- 天王通り⇒引き続き力をいれていくべき
- 個人でお店をやりたい人を呼び込む
- 常に人が集まる空間⇒天王通り、観光+？
- 買い物に行きたい店⇒スーパー、今までのお店⇒観光客
- 飲食店、住む人にとってコンビニがないと、最低限のお店
- 図書館の水準は高いか？学校の体育館を利用しやすい仕組みも
- 公園⇒小さい公園は自治会管理へ移す
- スポーツー体育館ー避難

Bグループ

- 子育て世代が住みたいと思うまち
- 人口減少に歯止めをかける
- 20～30代女性転出をくい止める、子育て世代を出ていかせない、子育て施策、働き口
- コンパクトシティ減少が前提の社会交通弱者対策、集約化
- 津島市全体を維持するのが難しくなる、効率化が必要
- 健康寿命を延ばす⇒社会活動への参加を促進する⇒医療費の抑制に
- 幼・老複合施設一緒に遊ぶ
- 協働を意識づけができた10年⇒何かをやっていく行政と一緒に
- 教育、小中一貫校

Cグループ

- 生活レベル（近眼的）、健康・ボロイ・子育て・高齢
- 市民としてはどうでもいい？いっそ引越せばいい、津島に住む理由ない？
- 高齢者多くて、子ども世代⇒ドラッグストア多い
- 長期的視点、公園、道路、文化財、生涯学習、環境問題、水道
- 財政再建
- お金の付け方、天王祭り、3600万円/1000人、費用対効果、見直しして費用、人員配置
- 職員は根幹を考える必要あり
- お金が落ちる観光
- 企業の誘致、お店を出したい、事業を起こしたい、人へのフォロー（空き家対策）
= 税収UP 対策
- 評価の仕方、指標の見直し、施策評価は？
- 市民に分かりやすい情報の提供、市民の当事者意識の浸透
- 市民協働のコアファンをつくる
- 自助、共助、公助、自ら動く人を育てる
- 人間関係与えるよりも与えられるもの
- みんなが協力しあえるまちづくり（協働、若い世代の巻き込み）
- 子どもを育てやすい、子どもが学びやすい環境の構築
- 住みよいまちづくり、くさくない、歩きやすい、アクセス良い、運転しやすい
- SDGs の浸透
- 子どもが育つまちづくり（親・環境関係なく）



まちづくり戦略のテーマ案

Aグループ

- 住み続けてもらうためのまちづくり
- 住んでもらえる環境づくり（子育て、医療費、移送・移動手段など。津波浸水区域を周知）
- ICTへの対応（キャッシュレス化、病院のネットワーク（会津若松スマートシティなど）、マイナンバーカードの活用）
- 女性が活躍できる社会づくり
- 人を呼び込むまちづくり（産業振興、天王通りを常に人が集まる倍に、個人で店を経営したい人を呼び込む、観光客向けの店舗経営、住み人にとってコンビニは必要）
- 公共施設のあり方（維持のレベルで良い基盤（下水道など）、図書館の水準は高い、学校の体育館を利用しやすいしくみに、小さな公園は自治会に管理を移管、体育館の整備と避難所としての活用）

Bグループ

- 子育て世代が住みたいと思うまち
- 人口減少に歯止めをかける～女性転出、子育て世代転出を止める施策、働き口
- コンパクトシティ～人口減少が前提
- 全体の維持が難しい“効率化”が必要
- 社会活動への参加促進→健康寿命を延ばす→医療費抑制
- 共創社会（行政と一緒にやっていく）
- 教育の充実（小中一貫校など）
- 子ども・高齢者の複合施設の整備～一緒に遊ぶ

Cグループ

- 市民協働、人づくり
- 稼ぐまち・財政健全化
- 子どもが育つまち
- SDGsに向けた取組

(職員ワーキング まちづくり戦略 骨子案)

※現行の「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」をベースに仮の枠組みとして作成

| 基本目標 | 施策の方針 | ワーキングからの主な意見 |
|----------------------------------|---------------------------------|--|
| 1 子どもを産み、育て たくなるまち | 途切れのない子育て支 援の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代が住みたいと思うまち ・住んでもらえる環境づくり(子育て、医療費) |
| | 子どもが健やかに成長 できる環境づくり | <ul style="list-style-type: none"> ・教育の充実(小中一貫校など) ・子どもが育つまち |
| 2 若者や女性が活躍 し、定住したくなる まち | 若者の雇用機会の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・子育て世代転出を止めるための雇用の確保 |
| | 利便性の高い居住環境 の整備 | <ul style="list-style-type: none"> ・住み続けてもらうためのまちづくり ・住んでもらえる環境づくり(移送・移動手段) |
| | 女性の活躍 | <ul style="list-style-type: none"> ・女性が活躍できる社会づくり ・女性の転出を止めるための雇用の確保 |
| 3 個性的な魅力を発信して、多様な交流 が生まれるまち | 歴史・文化を活かした特 色と活気のあるまちづ くり | <ul style="list-style-type: none"> ・人を呼び込むまちづくり (産業振興、天王通りを常に人が集まる倍に、 個人で店を経営したい人を呼び込む、観光 客向けの店舗経営) |
| | シティプロモーション の展開 | |
| 4 お互いに支え合い、 安心して暮らせる 安全なまち | 防災・減災対策の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設のあり方(体育館の整備と避難所と しての活用) ・住んでもらえる環境づくり(浸水対策) |
| | 健康寿命の延伸 | <ul style="list-style-type: none"> ・社会活動への参加促進による健康寿命の延 伸 |
| | 自治活動・市民活動の活 性化 | <ul style="list-style-type: none"> ・市民協働・人づくり ・共創社会(行政と一緒にやっていく) ・子ども・高齢者の交流を促す複合施設の整備 |
| 5 持続可能なまちづ くり | 公共施設のあり方 | <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少を前提としたコンパクトシティ ・公共施設のあり方、全体の維持が難しい“効 率化”が必要 ・公共施設のあり方(維持のレベルで良い基盤 (下水道など)学校の体育館を利用しやす いしくみに、小公園は自治会に管理移管) |
| | 財政健全化 | <ul style="list-style-type: none"> ・稼ぐまち・財政健全化 |
| | SDGs | <ul style="list-style-type: none"> ・SDGsに向けた取組 |
| | 行政の効率化 | <ul style="list-style-type: none"> ・ICTへの対応(キャッシュレス化、病院の ネットワーク、マイナンバーカードの活用) |

第5次津島市総合計画 重点戦略案

基本目標 1・2 子どもとともに育つまち

| 施策の方針 | 主な事業 | 具体的な内容 (ターゲット、ねらい・目標、対応する主要課題 等) |
|--|--|--|
| 安心して出産・子育てできる (子育てに余裕をもって向き合えて、毎日楽しく暮らせるまち) | <ul style="list-style-type: none"> ・ファミサポ支援者の増強 ・給食費無償化 ・予防接種費用の補助 ・医療助成の充実 | <ul style="list-style-type: none"> ・働きながら育児ができる ・子どもの健康を守る ・出産への不安を解消する(金銭的、心理的)バザーの実施(服とか) ・病児・病後児保育、ファミサポ対応 ・子育ての不安を解消することができる、相談窓口 ・保育のニーズ、質の確保(研修機会の充実、人材確保) |
| 『生きる力』の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ・学校施設の整備、美化 ・放課後教育の実施 ・運動公園の充実(体力向上) | <ul style="list-style-type: none"> ・他市の教育、質に+α ・低所得者層への教育の機会のフォロー+子ども食堂 ・家族全員が健康で元気に過ごせるまち ・学童+放課後、利用しやすいものへ ・生涯学習の充実、体力、運動能力の向上 |
| 大人も育つまち (若者や女性が活躍し、定住したくなるまち) | <ul style="list-style-type: none"> ・予防接種のネット・デネットを学ぶ機会 ・ひとり親の就労支援 ・テレワーク、独立の支援をする ・地域で子どもの経験値を上げる。土日での過ごし方、イベントの活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・親同士のコミュニティをつくる、広がる(サークル活動のフォロー、子育て支援センターの充実) ・住まい、環境に関係なく、好きなことに力を入れることができる ・親の教育力の向上(教育に対して興味、関心をもってもらう) |

基本目標 3 歴史・文化を活かした特色と活気のあるまち

| 施策の方針 | 主な事業 | 具体的な内容 (ターゲット、目的、意図すること 等) |
|-------------|--|--|
| 歴史・文化的資産の保全 | <ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化講座の開催 ・文化財の保護 ・郷土学習(小・中学校) | <ul style="list-style-type: none"> ・市民の歴史、文化的資産保全への意識の醸成 ・コミュニティにコーディネーター的な人、子どもが学校以外で遊べる場を提供 |
| 交流人口の増加 | <ul style="list-style-type: none"> ・SNSによる情報発信、AR、VR(IT)を活用した ・関東圏でのイベント(リア開業を見据えて) ・歴史、文化的資産を活用したイベントの開催 ・有名人による歴史散策テレビ(ex.プラタモリ)の招致 ・歴史、文化と触れ合いながら住むことが魅力とを感じるような施策、市民意識の醸成 | <ul style="list-style-type: none"> ・市外の人、「津島」の認知度向上 ・聖地 ・醸成=生涯学習の活用 ・保全—市がやる保全、意識の醸成—市民が行う保全 内向きPR、外向きPR |

基本目標 4 お互いに支え合い、安心して暮らせる安全なまち

| 施策の方針 | 主な事業 | 具体的な内容 (ターゲット、目的、意図すること 等) |
|---------------|---|--|
| 防災、減災対策の充実 | <ul style="list-style-type: none"> 避難ルート作成（行政、コミュニティ） 防災教育（行政） 防災アプリ（民間提案） | <ul style="list-style-type: none"> コミュニティの人々が暮らしているまちについて考える ⇒コミュニティに市も関わる ルートの検討⇒市民、地域 コミュニティの中で伊勢湾台風等被害経験がある人の話しを子どもたちに対する教育として（大人の自由度の向上） 学校ではどうするのか？防災教育 特に外国人への情報提供を行う、アプリ作成、防災災害 |
| 健康寿命の延命 | <ul style="list-style-type: none"> 公園等に健康器具の設置 通いの場を設ける 高齢者のいきがいづくり | <ul style="list-style-type: none"> 住民の参加を促す ・公園に健康器具 自分でお金を払ってイスに自分の思い出などをいれられる 通いの場、医療専門職がかかわる 調理実習、糖尿病にならない食事 |
| 自治活動、市民活動の活性化 | <ul style="list-style-type: none"> 多文化共生、多様化 支援+参加することができる、日本語教室 地域フェスティバル開催 コミュニティ推協・コミュニティサークル | <ul style="list-style-type: none"> 外国人との共存 3世代で参加できる |

基本目標 5 持続可能なまちづくり

| 施策の方針 | 主な事業 | 具体的な内容 (ターゲット、目的、意図すること 等) |
|-------------------------|--|---|
| コンパクトシティ化 良好な都市景観の形成 | <ul style="list-style-type: none"> 都市施設誘導施策、計画策定 コスパの良いまち 放置自転車の利活用 ・無電柱化事業 | <ul style="list-style-type: none"> 天王通り周辺店舗への税制優遇 天王通りを中心とした住みやすいまちづくり 人口増加（定住） ・交流人口増加 |
| 稼ぐ | <ul style="list-style-type: none"> 企業誘致の推進、新たな場所 ふるさと納税 人員の適正化（給与ベースで1割減） | <ul style="list-style-type: none"> 津島ブランドの創出（毛織物など） 莪原町、金柳町を中心とした新規地区の選定 名古屋津島線 BP の早期完成要望 ・新たな特産品の発掘 津島ブランドの PR ・税込アップ |
| 公共再編 公共スペースの活用 | <ul style="list-style-type: none"> 民間活用（PFI） 学校施設の再編 学校空き教室の貸し出し 空き地、空き家活用 | <ul style="list-style-type: none"> 行政では限界、民間と協力 空き家、空き地をプラス方向へ使ってもらおう 空き家、空き地を一時間単位で貸し出せる仕組み 減る人口にあわせた公共施設 |
| ICT の活用 | <ul style="list-style-type: none"> ペーパーレス化 キャッシュレスの推進 マイナンバーカードのみで申請可能な行政システムの形成 | <ul style="list-style-type: none"> マイナンバーカード普及率 30% 津島公式 LINE つくって！！ 財布がなくても生活できる |

将来像検討 WG 案

案 1

美しい藤棚を思い浮かべてみてください。

こぼれ落ちそうなほど垂れ下がる花房、しっかりと力強く太い幹、ぐんぐん伸びていく枝、かぐわしい香り。津島が誇る、藤棚です。

津島は、まちづくりの方向性を藤棚の成長に例えて考えてみることにしました。

『つしま』という大地に藤の木が植わっています。その木から伸びる枝はこの地で暮らす、わたしたち『一人ひとり』。みんながそれぞれの未来に突き進み、各々の『願い』となる美しい花を咲かせます。

枝がぐんぐん伸びていけるように、幹は枝を支えるために『理念』を持っています。藤の根は幹や枝、花に栄養を届けられるように、『基本計画』といういくつもの根を張っています。

みんなで藤の枝を広く伸ばし、願いをかなえて花を咲かせる。そうして藤棚が満開になるよう成長させていくことが目標です。

枝は一人ひとりが持つ個性や生活で、隣り合う枝同士、お互いを思いやり、伸ばし方を認め合うことで、美しい花を咲かせます。

一人ひとりが自覚と責任を持って自分の枝を成長させ、みんなが協力して枝を広げ、その藤棚にたくさんの花が咲いたとき、藤の木は誇りを持つ事が出来ます。その藤棚に子どもたちの枝が加わり、成長することで、その誇りは未来へと受け継がれていきます。

「みんなの願いが咲き誇る やさしさ広がるまち つしま」

日々一人ひとりがお互いを認め、思い合いながら成長する。みんながその過程を共有した時初めて、一本一本だった枝が藤棚としてできあがり、花が満開となることで、つしまというまちになっていきます。

そして、この藤の木を育て、花を咲かせていく過程の経験こそ、つしまらしさにつながっていくのではないのでしょうか。

「一緒に作ろう 未来へのかけはしを」
「あなたと育てる あしたをつなげる」

みなさんは住んでいる地域が10年後どうなっているか考えたことはありますか？

津島はこのまま10年すると、総人口の減少、団塊世代が75歳以上を迎え、空き家の増加、公共施設の老朽化など様々な課題が待ち受けています。人口が少なくなると、行政の財源も減っていき、道路を補修することが難しくなったり、津島の素敵な歴史や文化が衰退してしまうことが懸念されます。

これらの将来訪れる課題を解消し、これから生まれてくる子どもたち、社会人となっていく子どもたち、子育て世代となっていく若年層、子育てを終える世代、定年を迎え高齢者層となっていく世代、どの世代にとっても生きやすい地域と都市環境をつくり、維持していくことを目指します。

しかし、これらの課題に立ち向かっていくには行政の力だけでは対応することが困難です。だからこそ、居住している方、他市町村から就業に来ている方、事業主の方など何らかのかたちでこのまちに関わっているみなさんの力が不可欠です。一人一人と手を取り合い、すべての人が生きやすい、暮らしやすいまちを共に育てていきましょう。

どの世代も生き生きと活躍する、住んでいて良かったと感じるまちへ。